



菅生学園報

第8号 2022年 新年号



理事長メッセージ



理事長
島田 幸成

新年、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、昨年はコロナ感染が依然として収まることなく、日常生活が制限されるなか、大変な年となりました。世界的な盛り上がり期待していた2020東京オリンピック・パラリンピックは開催はされましたが、無観客での開催となり、残念でした。その後、年末にむけて感染者は収まりましたが、今後、新たなオミクロン株への懸念もあり、まだまだ、安心ができない状況です。感染対策の徹底、保護者への状況説明など対応しつつ、第6波の感染拡大に対応する必要があります。

学園を振り返ると、昨年は高校野球部の春・夏連続の甲子園大会出場、吹奏楽部3回連続全国コンクールでのゴールド金賞受賞、24年ぶりとなる春高バレー出場をはじめ、クラブ活動の躍進がありました。また、中等部で医学難関大コースがスタートしましたが、外部試験の結果はまずまずのようで、今後の活動も大いに期待するところです。菅生学園一貫教育体制を整備充実して総合進学コースの東海大学への付属推薦、そして、特進コースの更なる進学実績の向上につなげる必要があります。

今後とも私学経営にとっては厳しい環境が続きます。菅生学園一体的な活動を通じて、園児・児童・生徒の夢や希望の実現ために、関係各位のご尽力を心からお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。

菅生のあゆみ



副理事長
島田 洋子

ここ菅生の地に、菅生学園(当時東京菅生高等学校)が設立して早36回の卒業生を送り出すほどの月日が経ちました。顧みますと、この間多くの苦しみや楽しみ、いろいろな歴史を積み重ね、乗り越えつつ現在に至っていますことを、現役の皆様、そして学園の良き歴史を添えてくださった教育関係の方々に改めて感謝申し上げます。

設立当時、前理事長島田久が東京薬科大学所有のこの土地を購入し、高校設立までの間、菅生の住民の方々に深い理解やご協力、そして温かいご支援の上設立できましたことへの感謝の気持ちを忘れてはならないと思います。お陰様で、高校設立から始まり、現在は中等部、そして初等学校も設立、一貫した教育ができる環境までに成長いたしました。

まだまだ前途多難な道のりではありますが、菅生学園の教育を土台にして、世の中に、そして社会にはばたく人格づくりができますよう、この地に与えられました使命を感じつつ、菅生学園関係者一同努めてまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

1. 理事長メッセージ
2. 菅生のあゆみ
3. 永年勤続表彰
4. カフェテリア油彩
「何でもない日のパーティー」
作者記念品贈呈
5. 園長／校長メッセージ
トピック
活動報告
今後の予定
6. 菅生STEAMチャレンジ
7. 菅生のひとこま
8. 父母会・同窓会長メッセージ

編集後記

永年勤続表彰

永年勤続表彰 受賞者：若林 江津子先生

1、表彰にあたっての感想

結婚、4人の子どもの子育てと、目まぐるしく起伏に富んだ時間で、もう30年という思いがします。子どもが小さいころは一人病気になる他の子どもにもうつり、生徒たちにはまた自習をさせてしまったということもありました。子どもは私が休めない時に限って具合が悪くなり、保育園の先生から「お子さんを見ているとお母さんが忙しいのがわかる」と言われて、「自分のことを見て」という子どもの無言のメッセージではないかと思いました。これまででよかったと思ったのは、生徒がやる気を見せてくれた時です。

父母会にはトータルで15年以上は関わっていますが、自分自身が刺激を受け、自分も子供の学校で父母として活動しました。昨年は、父母会の委員長さんから「学校や子どもたちの助けになりたい」と申し出がありました。子どもたちのために学校に対してできることをという視点で考えていただき、とてもありがたいと思います。

2、菅生のよいところ

アットホームであたたかさがあるところ。杓子定規ではなく、やる気があるなら応援しようという気風。スイッチが入った時の生徒のやる気は目を見張るものがあります。学びの城 初等・中等も「菅生の子」と思うと特別な想いがあります。

3、学園に望むこと

募集広報では自分たちができることをがんばり、先生たちが一生懸命に対応しているのに、「本校舎が暗い」という印象で学校に興味を持たなくなってしまうのは悲しいと思います。菅生は、一人ひとりを見てダメな時はダメと教え、その後の人生に必要なことは何かを考えながら教育していますが、そういうよさがなかなか理解されていないと思います。毎年400人以上が学校のよさを理解して入学してくれることに感謝したいと思います。

4、菅生学園の子どもたちに望むこと

自立するために厳しさから逃げずに乗り越えていってほしいと思います。



カフェテリア油彩「何でもない日のパーティー」 作者記念品贈呈

作者 岡部 亜夕奈さんに記念品贈呈

菅生高校令和2年度卒業生で美術部で活動されていた岡部亜夕奈さんが描いた「何でもない日のパーティー」が学びの城6Fのカフェテリアの壁面に掲額されました。11月17日これを記念して、お母様が見守られる中、理事長から岡部さんに記念品が送られました。岡部さんにこの作品に込めた思いなどをお聞きました。

1、美術部に入った理由

絵を描くことが好きで、中学校の時も美術部だったからです。

2、3年間の美術部での活動を通して得たもの

絵を描く技術もそうですが、キャンバスや額作り、額付けなどを自分でできたこと、今、何をしなくてはならないか、周りを見る力がついたこと、部展や文化祭でみんなと力を合わせられたこと、これらは、今の仕事に役立っています。

3、この作品に込めた思い

「不思議の国アリス」のお話が好きだったからです。

4、学びの城のカフェテリアに飾られた感想

飾られると聞いてとても驚きました。本当に飾られるのか半信半疑でした。6か月かけて描いた絵が、今、立派な額で飾られるのを見て、とてもうれしいです。

<岡部さんお母様のコメント>

飾られると聞いた時は「亜夕奈、やったじゃん！」という感じで驚きました。絵はそれぞれ個性があり、見る人によっていろいろだと思うのですが、先生方がこの絵を飾るといいと言って下さったことはとてもうれしいです。



多摩学院幼稚園

園長メッセージ



仲野 三千代園長

子どもたちの笑顔響きあう幼稚園を

2022年（令和4年）あけましておめでとうございます。皆様とともに、新春を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

新しい年が皆様にとって健康で幸せに満ちた年となりますようお祈り申し上げます。そして、今年も子どもたちの笑顔が響き合う幼稚園生活でありますよう職員一同心を合わせて参ります。この一年1日1日を大切に、子どもたちが楽しさや満足感を十分に味わい、そして笑顔にあふれる園生活が過ごせるよう、ただひたすら子どもたちの成長のために邁進してまいります。一人ひとりのお子さまの健康につきまして十分に配慮し、春夏秋冬、その季節に応じた学び・あそびを体験・経験させながら成長を見守っていきたいと思います。すべての子どもたちは、自らを学び・よく遊び、生命力を立派に身につけてくれます。広い世界を観察してくれると期待します。

新型コロナウイルス感染症対策は、ゼロにすることだけがゴールでないことがわかります。さまざまな制限をして感染を抑える一方で、人と人とのつながりをしっかり感じられるようにして子どもの育ちを守ることが、新型コロナウイルス対策の本質でしょう。

本年も、皆様にご支援・ご協力を賜る機会が多いかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

トピック

12月4日（土）にクリスマス会（音楽リズム生活発表会）を行いました。

今年度は、第1部・年中組、第2部・保育園、第3部・年長組の3部に分かれて行い、歌・楽器演奏・リズム遊戯・リズム劇・オペレッタなど成長に合わせたプログラムを披露しました。本番でお父さん・お母さんに見てもらおうことを楽しみに、毎日の練習を頑張りました。

年中組の楽器演奏は、自分の演奏するパートのリズムを他のパートに釣られないように気を付けて演奏しました。保育園は、リズム劇に挑戦し、かわいく演じました。年長組のオペレッタでは、担任の弾くピアノに合わせて歌ったり踊ったりしました。子ども達がセリフを覚え大きな声で言っている姿は年長組らしくとても素敵でした。最後には先生サンタからのプレゼントをもらい、大喜び。どの学年も子ども達同士で楽しそうに演じている姿を見ることができ、お父さん・お母さんに「上手だったね」と褒められ、子ども達の笑顔があふれる一日となりました。

みんなの成長を感じるクリスマス会になりました



【年中組】
リズム劇



【年中組】
楽器演奏



【うさぎ組】
リズム遊戯



【保育園】
リズム劇



【年長組】
オペレッタ



【年長組】
木琴

活動報告

9 / 1	始業式	10 / 28	年中組おもほり	12 / 4	クリスマス会 (音楽リズム生活発表会)
9 / 2	マジックショー (羽村市幼稚園協会主催)	10 / 29	多摩学フェスティバル	12 / 10	おもちつき
10 / 20	9・10月お誕生日会	11 / 4	年長組みかん狩り	12 / 15	お誕生日会
10 / 23	第51回運動会	11 / 11	年長組親子サイクリング遠足	12 / 20	終業式
10 / 25	マラソン始まり	11 / 17	お誕生日会		人形劇
10 / 27	年中組親子遠足 (羽村動物公園)	11 / 22	交通安全教室 勤労感謝の集い		(羽村市幼稚園協会主催)

活動予定

1 / 4	2・3号児保育始まり	1 / 21	なわとび大会	2 / 24	防犯訓練
1 / 6	3学期始業式	1 / 26	お誕生日会	2 / 25	マラソン大会
1 / 13	年中組営生初等交流会 (中止)	2 / 3	豆まき	3 / 3	おひなまつり
1 / 20	メンデル幼稚園交流会 (中止)	2 / 5	作品展	3 / 12	第51回卒園式
		2 / 16	父母会総会	3 / 18	修了式
		2 / 17	お誕生日会		

菅生学園初等学校

校長メッセージ

体験型教育の効用を生かした人材育成に邁進する1年に！



下平 孝富校長

明けましておめでとうございます。今年は壬寅の年ということで、大地の下に春の息吹を蓄えた状態の年と解釈ができるそうです。初等学校では、様々な挑戦するマインドを内に秘めて飛躍に至る年としたいと考えます。

さて前回の寅年を振り返ってありましたら、興味深い統計を見つけました。独立行政法人国立青少年教育振興機構が、2010年4月25日に公開した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究（中間報告）」によると、「**子どもの頃の体験が豊富な人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多く、現在の年収が高かったり、1か月の読書量が多かったりする傾向にある**」というものです。

初等学校の授業では「ゆたか」に代表される体験型教育が受け継がれてきております。その効用が統計的に証明されていたということです。スティーブ・ジョブズがスタンフォード大学卒業式でのスピーチでも触れ、また自分のこれまでの経験を通じた感覚として「体験」の重要性は理解していたつもりながら、公の調査の形で報告されていた事実には心強さを感じます。募集戦術上の観点からも体験型教育をより一層充実させて豊かな人生を送れる人材育成に注力する学校にしたいと思っています。

トピック

味噌開樽

1年前に大豆を栽培・収穫し、仕込んだお味噌を開樽しました。美味しそうな芳醇な香りがただよいました。一人2kgを持ち帰りました。

稲刈り

春から育てたもち米の稲を刈り取りました。町内会長の野口さんのご指導ではさ掛けを行い、その後千歯こきで脱穀しました。なかなか大変です。

菅生ならではの体験学習です



活動報告

9 / 1	始業式・引き渡し訓練
9 / 2	学力テスト
9 / 3	身体測定
9 / 6～8	6年生三者面談
9 / 11	オンライン説明会（菅生の生活）
9 / 15	5・6年生 TGG体験学習
9 / 28	教職員研修会（特別活動について）
10 / 2～3	菅生祭
10 / 6～8	6年生校長面談
10 / 15	学力テスト
10 / 18～	教育実習
10 / 23	スッガニア・ハロウィン（説明会）

11 / 1	第1回 入学試験
11 / 6	第15回 運動会
11 / 13	第2回 入学試験
11 / 14～17	6年生修学旅行（京都・奈良）
11 / 23	第1回 特別入試
12 / 9～15	個人面談期間
12 / 11	マラソン記録会・焼き芋大会
12 / 12	第2回 特別入試
12 / 17	終業式
12 / 21～23	3年生スキー教室 婦恋 婦恋セミナーハウス

※その他プログラミング授業（全学年）
11 / 11, 17, 26, 12 / 7, 8 実施

活動予定

1 / 8	始業式
1 / 11	身体測定
1 / 12	書初め大会
1 / 21	英語検定
1 / 29	漢字検定
2 / 12	入学児保護者会
2 / 19	劇と音楽の会
2 / 26	編入試験

3 / 8～14	個人面談期間
3 / 12	縦割りウォーキング
3 / 16	卒業式
3 / 19	修了式

その他プログラミング授業（全学年）
1 / 18, 2 / 3 実施

菅生高等学校中等部

校長メッセージ

下平 孝富校長

万民(ばんみん)快樂(けらく)を願える人材育成を！～2022年のはじめに～

謹賀新年。恙なく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2022年を迎え、中等部としては2月の入試に向けてラストスパートといったところです。新設の医学・難関大コースにも徐々に関心が寄せられています。

昨年末、千葉工業大学の古田教授の講演を聞く機会に恵まれました。最近、テクノロジーの進化は目ざましいと感じます。東日本大震災で被災した福島原発の建屋内を調査するための自走ロボットなど、最先端のロボットに触れました。45度の傾斜を登ることができ、原発建屋の5Fまで登れるロボットはこの機種だけとのこと。あらゆる作業は、ロボットに代替されていくことを予感させる光景でした。

このような時代にプログラミングされたロボットではなく、人間にしかできないこととは何か？私は他人を思いやる心や他者に尽くそうとする思いではないかと感じています。万民(ばんみん)快樂(けらく)を自然に願える人材を育てることに力を尽くしたい新年です。

トピック

オープン・スクール

中等部の広報イベントにおいて特色ある企画といえば、前回ご紹介した「算数教室」と同様に「体験型」をより重視した「オープン・スクール」があげられます。名前だけ聞けば、どこの私立学校でも行っている体験イベントと思われるがちですが、本校のオープン・スクールはまさに「菅生中等部の学校生活1日」を丸ごと体験していただく企画となっています。

開会は校長先生からの歓迎のご挨拶に始まります。こちらは日常と同じ全校集会のかたちで進められていきます。体験授業の教室では、教科担当の先生方と代表生徒が連携し、児童たちの学習活動のお手伝いをします。今年度の7月の会では90組のご家庭が参加され、6つの教室にわかれて、選択された教科の授業を体験されました。コロナ禍のため、体験授業の内容検討など、担当の先生方には大変なご苦労がありましたが、先生方の努力が実って、参加された児童、保護者にはたいへん喜んでいただきました。

児童の皆さんが楽しみにされていた給食体験の献立は、7月の会では「ハヤシライス」、10月の会では「ハンバーグ」でした。お替りの列ができるほど大好評でした。また手作りデザート「バナナコッタ」も絶品とお褒めの言葉がありました。ニーズの皆さんには、いつもご協力いただき、本当にありがたく思います。

食後の休み時間をはさんで、希望者にはクラブ活動を体験していただきました。まさに菅生中等部の1日を満喫していただき、オープンスクールは終了いたしました。次年度も参加者に十分満足をしていただける会となるよう、教職員、生徒共になお一層励みたいと思います。

たくさんの小学生が中学校の生活を楽しく体験しました



活動報告

9 / 1	避難訓練	10 / 13	開校記念式典	11 / 13	保護者会①②
9 / 10	塾対象説明会 (ホテルエミシア東京立川)	10 / 15	生徒会役員選挙	11 / 16	校外学習②(横浜・鎌倉) 1泊2日
9 / 11	第3回学校説明会	10 / 22	郷土学習①	11 / 19	生徒総会
9 / 16～17	授業公開	10 / 23	第3回理科実験教室	11 / 20	授業公開 (9月18日の延期分)
9 / 25	中学生の主張大会 (校内実施)	10 / 25	修学旅行③(北海道道東) 4泊5日	11 / 27	第1回入試体験教室
9 / 29	スポーツ大会 学期更新式	10 / 26	校外学習①(静岡三保) 2泊3日	12 / 4	第4回理科実験教室
10 / 2	菅生祭	11 / 6	第4回学校説明会	12 / 16	音楽祭
10 / 10	第2回オープンスクール	11 / 10	夢育講座	12 / 17	芸術鑑賞教室
				12 / 19	第2回入試体験教室

活動予定

1 / 8	第5回学校説明会	2 / 4	第3回入試(午前)	3 / 4	野鳥観察② 卒業遠足③
1 / 15	第5回理科実験教室	2 / 6	第4回入試(午前)	3 / 15	中等部卒業式
2 / 1	第1回入試(午前・午後)	2 / 11	入学準備説明会	3 / 19	修了式
2 / 2	第2回入試(午前・午後)	3 / 3	地域清掃	3 / 26	新入生招集日

菅生高等学校

校長メッセージ



峰岸 英仁校長

厳しい冬を成長の礎に

新年、おめでとうございます。今年の干支は壬寅（みずのえとら）です。厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージだそうです。世界中がこの2年間新型コロナウイルスに振り回されてきました。とても厳しい冬だったと言えます。今年は、コロナ禍から脱して、明るく活気ある社会に再び戻るはず。そして、景気が良くなり、入学希望者が増えることも期待したいものです。

4月には40期生が入学してきます、そして教育課程も新しい学習指導要領に基づいたものになります。さらに、観点別評価も導入されます。Society5.0においてより良い未来を創造できる人材を育成することを念頭に教育を実施するわけです。そこに求められているのは、まさに東海大学の建学の精神にもとづく教育指針に示された育成像そのものとも言え、本校の理念を信じて進み続けられよいのです。その実現のための手法については他校に先んじられるよう、常に次代を見据えて研究し改善を心がけて行きましょう。

トピック

今季も各部活動とも素晴らしい成績を残しました



吹奏楽部

第69全日本吹奏楽コンクール **金賞**
第27回日本管楽合奏コンテスト
全国大会**最優秀賞**
第23回全日本高等学校吹奏楽大会
連盟会長賞（金賞）



弓道部 東京都高等学校秋季大会 男子団体戦 **優勝**
男子個人戦 **第3位** **近藤 響**
※全国選抜大会出場決定 団体は初出場、
個人は4回目
東京都高等学校新人大会 男子団体戦 **第3位**
※東日本大会出場決定



男子バレーボール部

全日本バレーボール選手権大会 東京都予選 **第3位**
※春の高校バレー大会出場決定（全国大会）

テニス部

第60回 東京都高等学校新人テニス選手権大会
団体戦 **優勝**
シングルス **優勝** **山田矢音** **第3位** **大森翔太**
ダブルス **優勝** **山田矢音・川崎幹太**

活動報告

9/29	体育祭	10/19	定期試験	11/27	第五回学校説明会
9/30	学期更新式	～22		11/29	
10/2, 3	菅生祭	10/23	第二回学校説明会	～12/3	沖縄修学旅行（2年）
10/9	第一回学校説明会	11/4	高大連携総合試験（3年）	12/4	GTEC試験（1年）
10/13	開校記念式典	11/6	第三回学校説明会	12/14～17	定期試験D
		11/22	第四回学校説明会	12/17	芸術鑑賞教室

活動予定

1/15	第3回英語検定	1/29	第3回漢字検定	3/10	答案返却日
1/19	小論文講演会	2/5	小論文テスト	3/15	再試指導
1/21	入試準備日	2/10	第1回一般入試	3/18	再試/再試判定会
1/22	推薦入試	2/11	第2回一般入試	3/19	修了式
1/24	看護・医療系ガイダンス	2/28～3/3	学年末考査	3/21	総進：基礎学力講座
1/25	公務員ガイダンス	3/3	追試		（～24日）
1/26	大学個別相談会	3/5	一般入試ガイダンス		特進：春期講習（～25日）
1/28	記述模試（特進のみ）	3/8	卒業式		

菅生 STEAMチャレンジ (3)

STEAM教育 ⇒S(Science 科学)、T(Technology 技術)、E(Engineering 工学)、A(Art 芸術)、M(Mathematics 数学)
このコラムでは、菅生学園の各園・校が取り組む様々な特徴あるSTEAM教育をご紹介します。
今回は、特進コース主任田名瀬友樹先生に、数学科での授業実践についてご紹介いただきます。

みなさんは、この問題にどのような第一印象を持たれますか。

【問題】

トランプを4枚用意します。2枚は♠と♣、残り2枚は♥と♦です。4枚をよく切って裏返して並べます。これら4枚から2枚をひっくり返したとき、2枚のカードが同じ色だったら勝ち！違う色だったら負け！この勝負、やるのが得ですか？損ですか？それとも五分五分ですか？



誘導するつもりはさらさらありませんが、一見「五分五分！」と思いませんか？
私がこの問題を授業で扱う際には、生徒にはさりげなく「この勝負は勝つ確率2分の1だよね！？」と言います。それから2人1組で実際に検証をしてもらいます。クラス全体で10～20組は作れますので、各組がお互いに役割チェンジをして1人当たり10回やれば、かなりのデータ数が採れます。ある程度のデータ数が採れば、この勝負は「負ける確率が高い」ことが分かります。そして「何故負ける確率が高いのか？」考えてもらいます。ちなみにこの問題は、2枚の選び方が「♠♣、♠♥、♠♦、♣♥、♣♦、♥♦」の6通りで、その中に勝ちとなるのは「♠♣、♥♦」の2通りしかないため、「勝つ確率が3分の1」なのです。対象学年は中学3年生または高校1年生としていますが、こちらが「してやったり！」と思うほどに引っかけられてくれます。

実際にこの問題を扱った授業を、こちらのQRコードを読み取りご覧いただくことが出来ます。



高校総合進学コースでここ数年この問題を扱っています。
こうした問題を通して生徒に一番伝えたいことは「平素からきちんとものごとを考える習慣を身に付けて欲しい」というこの一言につきます。今の生徒はあまり考えずに感覚で発言したり行動したりすることが多く、失敗をします。失敗はしてもいいし、むしろした方がいいかもしれません。しかし、失敗し続けることによって、徐々に自信をなくしたり他者から信用をなくしたりします。失敗を減らすために、検証することや論理的に考えることがとても大事だということを信念として授業を行い、それを生徒に伝えていきたいと思っています。

菅生のひとこま (2)

「菅生のひとこま」では菅生学園のさまざまな場所をご紹介します。第2回は学びの城「森の調べ」モニュメントです。

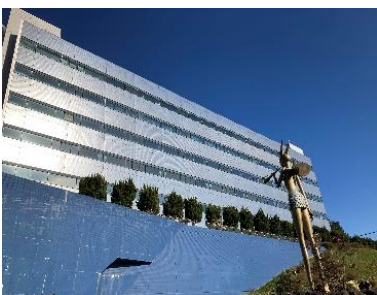


NHKの大ヒット人形劇「プリプリ物語」の人形作家としても知られる友永詔三氏制作による「森の調べ」。豊かな自然が残る菅生に棲む妖精がイメージされており、自然に対する思いを育んでもらいたいという意味が込められています。足元の花壇にはいつも美しい花が植えられ、花のそばには金色の小鳥のモニュメントもあります。学びの城に向かってトランペットを吹くその姿は、児童・生徒の成長の喜びと、励ましを伝えているようです。

友永詔三 (ともなが あきみつ)

造型作家。1944年(昭和19年)生まれ。高知県高岡郡出身。23歳の時にオーストラリアの人形劇団のオーディションに合格し、入社間もない舞台美術の会社を辞めて単身渡豪しました。

その後現地で人形製作の経験を重ねた後帰国し、本格的に作家活動を開始。以来、NHKの連続人形劇『プリプリ物語』(登場する人形すべてを造作)に代表される人形美術や、舞台美術・木版画、木彫、ブロンズ等の作品での個展などを数多く手がけ、現在も少女をモチーフとした作品を多数制作し、活躍中。現在、了徳寺大学芸術学部非常勤講師、朝日カルチャーセンター講師(木彫アート)を務める。あきる野市にある「深沢小さな美術館」は友永氏本人が8年の歳月をかけ、2002年に完成させた個人美術館。



父母会メッセージ

多摩学院幼稚園



多摩学院幼稚園 父母会
竹内 美香会長

新年明けましておめでとうございます。

今年度父母会会長を務めさせて頂いております竹内美香と申します。

今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、子供たちの安心・安全を第一に考え、行事の規模縮小や中止を余儀なくされました。新しい生活様式が定着し、子供たちも保護者と同様にマスクの着用や手洗いが当たり前となりつつあります。

そのような環境の中でも、子供たちは楽しみを見つけ、多くのことにチャレンジし日々成長してくれています。また、園の創意工夫により、感染対策を徹底して頂き、運動会やお遊戯会で子供たちの成長を見ることができ、元気をたくさんわけてもらいました。

父母会としては、保護者の皆様と先生方のご協力のもと、例年通りの活動とまではいきませんが、精一杯子供たちのサポートをして参ります。

本年も皆様にとりまして、素晴らしい1年でありますようご祈念申し上げます。

菅生学園初等学校



菅生学園初等学父母の会
堀江 武史会長

新年明けましておめでとうございます。

初等学校は2007年に開校し、今年度で15年目となります。その間、菅生学園の幼中高各校園には多大なるご協力を賜りましたことにまずは厚く御礼申し上げます。これまで父母の会の活動を支えていただきました学園、教職員、歴代役員の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、ここ3年順調に会員数も増え、父母の会の活動は大変活発になってまいりました。5月の総会は書面での審議採決でしたが、運動会では受付や駐車場の整理・誘導、子ども達の水分補給等でお手伝いさせていただきました。また、例年1月に行っております餅つき大会は他の行事同様今年も中止となりましたが、少しでもお正月の雰囲気味わっていただくため、市内の老舗和菓子店のお餅を配布させていただきました。お味はいかがでしたでしょうか。今後とも活動内容は広報誌「えがおのすがお」で年5回お知らせいたします。

これからも学校法人菅生学園の一員として、その一翼を担っていけるよう学園の事業に奉仕してまいります。旧倍のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

菅生高等学校・中部部



菅生高等学校・中部部
父母の会
西迫 初美会長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素は父母の会の活動に深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症に振り回されて2年になろうとしています。昨年も多くの活動が制限を受ける中、父母の会として学園のために、生徒たちのためにどうしたら力を尽くすことができるか考えさせられました。

1年生の時に菅生祭や体育祭を経験し、部活動の伝統を教えてもらった生徒たちが、この3月に卒業を迎えます。私たち父母の会も同様で、学校行事や父母の会総会の経験者がいなくなります。ですが「菅生愛」に溢れる役員、委員会メンバーはわが子が卒業しても行事協力を継続していくために影から支えていくことを決めています。

なにより生徒たちが安全・安心に過ごし、かけがえのない一年になるよう、学園と協力して全力で学校生活をサポートしてまいります。本年もご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会



川蟬会会長
渡邊 弘行会長

学園関係者の皆さんにおかれましては新年をご健勝でお迎えのこととお慶び申し上げます。東海大学菅生高等学校同窓会「菅生川蟬会」を代表いたしまして一言新年のご挨拶を申し上げます。

さて、本会では新年の2月12日(土)に役員の情報交換などを目的とした懇親会を予定しておりましたが、まん延防止等重点措置のため延期をする決断を致しました。様々な計画の実施が難しくなり、本会の主たる目的である同窓生皆様とのつながりが希薄になりがちになってまいりました。そこで、皆様との隔たりを埋めるべく新年初めての第5回運営委員会に於きましてインターネットを利用した情報発信を多角的に行うことを決議致しました。今後とも卒業生の皆様や現役生徒へのご支援など『絆-きずな』を第一に活動してまいりますので今年も宜しくお願い申し上げます。

編集後記



2022年1月

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今年の干支は虎。虎は決断力と才知の象徴とされています。江戸時代の「寅の刻」とは現在の午前4時の前後2時間ごろを指すのだそうです。まさに夜明け前といったところでしょうか。

予想外の2年に渡るコロナ禍の影響で、国際交流が中止になるなど、学校教育はいまだに大きな影響を受けています。そんな中でも、菅生の子どもたちは、元気にたくましく、そして賢く育っています。子どもたちの成長に負けないよう、私たちも前進する一年でありたいと願います。

編集・発行 菅生学園 法人本部

ご意見・ご質問はこちらへ 編集担当：高橋 真実